

「乳児期心室中隔欠損における欠損孔閉鎖後の機能的僧帽弁閉鎖不全残存を予測する心エコー図上の指標の探索」

1. 研究の対象

2009年1月1日～2020年6月30日に当院で心室中隔欠損閉鎖術を行った方のうち、手術前の心エコー検査で僧帽弁閉鎖不全を指摘された方

2. 研究目的・方法

手術（欠損孔閉鎖）が必要な乳幼児の心室中隔欠損症では、機能的僧帽弁閉鎖不全（f MR）を合併することがあります。通常、f MRは心室中隔欠損の手術（欠損孔閉鎖）をするだけで自然と改善し手術後に問題となることはありませんが、時に手術後にもf MRが残存し問題となることがあり、場合によっては2回目の手術（f MRに対しての手術）が必要となってしまうことがあります。欠損孔を閉鎖するだけでf MRが改善するかどうかを事前に予測できれば、このような事態を避けることができますが、現在は事前に予測する手段がありません。そこで本検討では、欠損孔を排砂するだけでf MRが改善するかどうかを事前に予測するための心エコー図上の指標を探索することを目的とし、これまでに当院で経験した「f MRを合併した心室中隔欠損症」の患者さんの欠損孔閉鎖前の心エコー図記録を後方視的に検討します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：診療録、心エコー図画像、心臓カテーテル検査記録、手術記録

試料：なし

4. 研究期間

2022年5月1日～2023年12月31日まで

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先
住所：〒989-3126 宮城県青葉区落合 4-3-17

電話：022-391-5111

宮城県立こども病院 集中治療科部長

研究責任者及：小野 頼母